# 福島第二原子力発電所からのお知らせ (平成28年12月号)

1~4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。



# 11月22日に発生した地震の対応の振り返りについて

11月22日に発生した地震(最大震度5弱)では、3号機の使用済燃料プールを冷やす系統のポンプが停止したため、プール水の冷却が一時停止しました。 地域の皆さまをはじめ、広く社会の皆さまにご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

当社は、今回の地震の対応を振り返り、改善点と今後の対応についてとりまとめました(12月8日公表)。引き続き、燃料の安定冷却に努めるとともに、 より迅速かつ分かりやすい情報発信に取り組んでまいります。

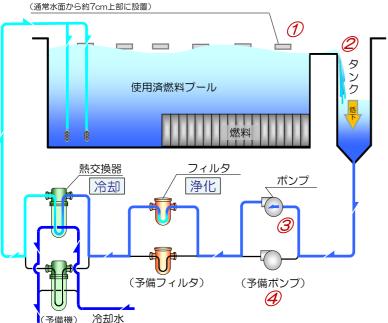
### ■燃料冷却の仕組み

燃料からの熱で温められたプール水は、隣のタンクに流れ込み、ポンプで循環させて、浄化と 冷却をした後、プールに戻します。使用済燃料プールは、ステンレスで内張りされており、 壁や底に水の取出し口がないため、水が抜けない構造になっています。

### ■ポンプが停止した経緯

(予備機)

空調ダクトの入口(換気するための空気取入れ口)



## <経 緯>

が悪でプール水が 揺れ動いた影響で 空調ダクトにプール 水が流入

タンクへ流れ込む プール水の量が 減り、水付が低下

(3) 水位の低下に伴い ポンプが自動停止 (ポンプの故障防止)

系統に不具合がない ことを確認し 予備ポンプを起動 (プール水冷却再開)

### ■改善点と今後の対応

設備

l'·運用面

コミューケ

ーション

面

他号機に比べてタンクの水位 が低かった(ただし正常範囲内) 3号機でポンプが停止しました。

空調ダクトの入口から入った プール水の一部が、ダクトの 接続部から漏えいしました。 (管理区域外への漏えいはなし)

通報担当者は、プールの冷却 停止は国・自治体への通報の 対象外(予備ポンプが起動可の 場合は対象外)と考え、通報の 初動が遅れました。

空調ダクトの接続部からプール 水が漏えいした件を、地震発生 の翌々日に公表しました。

## 今後の対応

タンク水位をより高めで運用しま す。

また、タンク水位の低下を検知 すると自動で補給するような機 能の追加を検討します。

空調ダクト接続部の定期的な 点検・補修を実施します。 また、ダクトの閉止を検討します。

地震発生時の通報様式(国・自 治体向け)に、燃料の冷却状態を 追加します。

また、通報担当者への周知を 徹底します。

地震発生時における通報・公表 のあり方を見直します。

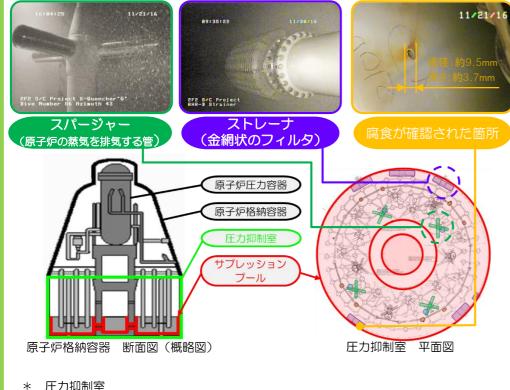
(社会の皆さまの関心が高い情報 の速やかな発信)

プール水の冷却再開(約100分間)までの水温の上昇は0.2 $\mathbb{C}$ (29.3 $\mathbb{C}$  $\rightarrow$ 29.5 $\mathbb{C}$ ) でした。

# 2号機の圧力抑制室内の定期点検が終了しました

- ○2号機の圧力抑制室内\*の内面および構造物について、水中カメラを 使用した外観目視点検を実施しました(10月25日~12月2日)。
- 〇圧力抑制室内の内部側面に1か所、腐食によるくぼみを確認して おり(直径約9.5mm、深さ約3.7mm) 今後、原因について調査する とともに、補修を行います。
- ○それ以外の点検対象について、点検および補修塗装を実施し、圧力 抑制室の機能に支障を及ぼすおそれがないことを確認しました。

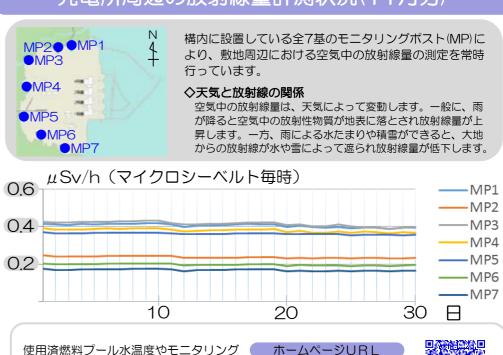
### <点検イメージ>



原子炉格納容器の下部にあり、原子炉圧力容器の圧力が上昇した場合にその蒸気を圧力抑制室内 に導いて、ためている水で冷却(凝縮)することで原子炉の圧力を低下させる設備です。

# 燃料の冷却状況(11月分) 使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で推移しており、燃料を 安定的に冷却しています。 11月22日 福島県沖地震 1号機 30 2号機 - 3号機 20 4号機 30 H 10 20

# 発電所周辺の放射線量計測状況(11月分)



ポストのこれまでの計測状況については、http://www.tepco.co.jp/

当発電所ホームページをご覧ください。

nu/f2-np/index-i.html